

## 第 61 回パグウォッシュ会議世界大会へのアピール

### 核兵器廃絶の実現と日本国憲法擁護への支持を訴える

先の NPT 再検討会議では最終文書を採用することができないまま閉会になったことは大変残念でした。とりわけ 107 カ国が賛同提案した「人道の誓約」に対して、唯一の被爆国として核兵器廃絶の先頭に立つべき日本政府がこれに賛同しなかったことは、平和を願う多くの日本国民の願いに背くことでした。私たちはこのことについて日本政府に抗議するものです。

ノーベル賞を受賞した湯川秀樹博士は、1954 年、「ラッセル-アインシュタイン宣言」に署名し、核兵器は人類の存続をおびやかしている事実から、その第一歩として、核兵器の廃絶を強く訴えました。1975 年、湯川・朝永宣言「核抑止を超えて」を公表し、核抑止論を批判、核兵器の廃絶にとどまらず、その先に全面完全軍縮と戦争のない世界のヴィジョンを提示しました。

湯川は日本国憲法が、まさにその理想を具体的に示した世界に誇る憲法だと高く評価していました。私たちもこのことを確信しています。

私たちは、かつて日本が東アジアの諸国を侵略し、多くの人々を殺戮し、苦難を与えたことを深く反省し、また原爆の惨禍を経験した唯一の国民として、二度と戦争をしないことを決意し、日本国憲法を制定しました。アジア・太平洋戦争終結から 70 年、日本は戦争をしない国として世界の多くの国々から信頼されてきました。

今国会で審議中の「安保法案」は、この輝かしい日本国憲法を踏みにじる悪法であり、核のない世界、戦争のない世界、平和で公正な世界を希求する世界の多くに人びとの願いに背き、東アジアの緊張を高めるもので、断じて認めることはできません。

私たちは、第 61 回パグウォッシュ会議世界大会の成功を祈りつつ、日本国憲法を固く守ることを決意し、核兵器廃絶の実現に向けて粘り強く闘っていくことをここに表明します。

以上

2015 年 8 月 1 日

原水爆禁止 2015 年世界大会・科学者集会 in 山口 参加者一同